

Australian Catholic University

オーストラリアン・カソリック大学

所在地

1100 Nudgee Road Banyo QLD 4014, Australia
 ホームページ: <http://www.acu.edu.au/international>

経済学部・語学留学(英)／専門留学
 外国語学部・語学留学(英)

沿革

19世紀に設立されたカソリック系教育機関に由来する伝統ある国立大学。学部は芸術、科学、教育、保健科学など多岐に渡っており、中でもNursing(看護学)、Health Sciences(保健科学)、Business & Information(ビジネス & 情報科学)は社会的にも高く評価されている。学生数は約9,000名。

特色

1 講義あたりの学生数の制限を徹底し、どの授業も実践的な内容を取り入れているため、学生の満足度は高い。学生のニーズに応じて、語学留学コース(8ヶ月)と専門留学+インターンシップコースを用意。
 ◆語学留学・・・ブリスベン校、シドニー校とメルボルン校とがあり、自由に選択できる。
 ◆専門留学・・・ブリスベン校で開講されている専門留学は経営・ビジネス関係が充実しており、コース終了後は将来就きたい業種を選んでインターンシップを体験できる。

宿泊

ホームステイ。

生活

専門留学はACUブリスベン校で、語学留学はシドニー校かブリスベン校もしくはメルボルン校で行われる。
 ○ブリスベン市はクィーンズランド州の州都で、人口約140万人、オーストラリアで第3番目に大きな都市。亜熱帯性の温暖な気候で、気温は夏(12月～1月)20℃から29℃で年間を通して大変過ごしやすい。市街地は大きく蛇行するブリスベン川の両岸に広がっている。周辺には南にゴールド・コースト、北にサンシャイン・コースト、東にモートン島などオーストラリアを代表するリゾートがあり、観光地へのアクセスも便利。
 ○シドニーはオーストラリア最大で最古の都市。人口はおおよそ400万人で、ニュー・サウス・ウェールズ州の州都。一年中を通して過ごしやすく、オーストラリアのシンボルともいえるオペラハウスなど経済のみならず文化の中心地としても重要な都市である。
 ○メルボルンは、シドニーに次ぐオーストラリア第二の都市で、人口はおおよそ370万人。ビクトリア州の州都として栄えてきた。近代的な都市として栄えるシドニーとは対照的に、歴史的な建造物が残り、文化の薫り高いメルボルンはエコノミスト誌上「世界で最も暮らしやすい都市」に複数回ランクされている。

条件

○経済学部：語学留学はTOEFL (ITP) 400点以上。専門留学はTOEFL (ITP) 525点以上。
 ○外国語学部：英語2専攻、IEC専攻はTOEFL (ITP) 450点以上。その他の専攻は各専攻で相談。

留学時期

2年次または3年次第1学期から
 語学留学：2月中旬から8月中旬までの6ヶ月。
 専門留学：専門留学+インターンシップは2月上旬から7月までのおおよそ6ヶ月。もしくは、2月上旬から翌年1月下旬までのおおよそ1年間。



オーストラリアン・カソリック大学留学体験記

経済学部経営学科 2016年留学 小野 博隆

私は2月から10ヶ月ほど、最初の半年間が語学、次の半年間が専門という留学をしました。1学期はひたすら学部授業を取れるようになるための準備をしました。エッセイの書き方、グループプレゼンテーションやディベートなどの練習をしました。語学は基本午前と午後の部に分かれており、午前は8時半から1時、午後は1時半から5時半でした。学期末にライティング、リスニング、プレゼンテーションとエッセイのテストがあり、必要な点数は全体の60%以上で、それに合格しなければ帰国しなければなりません。

2学期になって、無事学部授業を取れることになりました。オーストラリアは基本1学期に最大4つの授業しか取れません。授業

は3つのレベルに分かれています。例えば、僕はMGMT100、HRMG202とHEMG302の3つを選びました。100と200は1年生と2年生でとる授業なので、基礎的なものが多く、課題もそんなに苦ではありません。私は留学先で様々な事に挑戦し、経験するという目標を立てて行ったので、一番難しい300台の授業にも挑戦しましたが、本当に地獄でした。予習に3時間、授業2時間、復習4時間と合計一つの授業に最低でも9時間かけていました。このような中で思ったのは、外国の学生と僕たちが根本的に違うのは自立の差でした。僕たちは先生が黒板に字を書いて説明も丁寧にしてくれるのに対し、向こうでは授業は全部パワーポイントで進められ、分からないところを聞かないとどんどん話が進み、余計わからなくなります。そして、復習や課題も全部学生が中心になってやります。先生はほぼアドバイスをくれません。ですから、改めて自立の大切さを痛感しました。

今回の留学を通して思ったことや得たものは、大きく分けて全部で2つあります。まず、僕が留学を通して思ったことは、“失敗や間違いは恥ではなく、成長であること”です。私は初日のオリエンテーションで、5時間ほど学校にいましたが、英語を使って会話したのはほんの5回にも満たないものでした。それは失敗するのが怖く、自分から話す勇気を出せなかったからです。クラスにアメリカで1年間生活していた人や韓国で教師をしていて、TOEICが900点台の人もいたので、それに圧倒され、ひたすら話を聞くだけでした。1日目を終え、僕は悔しくてたまりませんでした。なんのためにこんなところに来たのだろ、このままで終わるわけにはいかないと、次の日から自分から進んで話をかけ、会話を楽しむようになりました。その時思ったのは、別に俺はネイティブじゃないし、間違いなんて当たり前だし、わからないことがあるのも当たり前だ。母語である日本語でもわからないこといっぱいあるのに、英語で間違える

は尚更当たり前だ、ということです。逆に失敗した方がより印象に残り、成長することができます。だから、最終的に僕は失敗することを楽しむようになりました。失敗が僕を大きくさせてくれたことも多々ありました。

最後に、僕が留学で得た大切なものは、“人との出会い”です。ただ英語を話せるようになりたいという人には、正直留学をお勧めできません。一番感じて欲しいことは日本では決して出会えない人たちとの出会いを楽しんで欲しいことです。彼らと話していると、こういう考え方日本人には絶対ない、日本にいたらテレビでも見ない彼らの国の一面を知ることができます。ですから、英語はそのための道具であり、一つのツールでしかありません。留学先で会う人たちは一期一会が多いです。だからこそ、彼らから学べるものがたくさんあります。ですから、これから留学を考えている皆さんに是非このようなところも考慮に入れて、留学について考えて欲しいです。